

観光料飲部会長報告

1. 会議名 第1回千秋公園歴史観光検討会（第1回観光料飲部会）

2. 日時 2025年5月29日（木）
10：30～12：00

3. 場所 当所ホール80

4. 出席者 部会員等25名

5. 懇談



テーマ 文化施設周遊の仕組みづくりについて
～「萩のおたから発見スタンプラリー」の紹介～

ゲスト 西日本旅客鉄道(株)広島支社山口地域共生室 松岡 慶子 氏
(株)日本旅行MaaS事業推進本部 太田 亨 氏

テーマ 「デジタルフォトビンゴ」について

ゲスト (株)コンダクター 代表取締役 斎藤 和貴 氏

(1) 「萩のおたから発見スタンプラリー」の紹介

◆ 萩のおたから発見スタンプラリー 概要・実績

- ・ JR西日本が提供するWESTERアプリ（利用者400万人超）を活用したデジタルスタンプラリーを萩市全体で実施し、認知度向上と観光促進を図った。
- ・ 期間は2024年7月下旬～2025年1月の約6か月間。
- ・ 宿泊や再訪問を促すため、1日ではクリアできない数（全80スポット）を設定。歴史や風景、食などのカテゴリに分けて参加を促した。
- ・ 期間中は約1万人がWESTERアプリにアクセス。実参加者は約600名。1人あたり約7.6か所を訪問。
- ・ 参加者は、山口県内が4割、近畿圏が3割、その他中国地方、関東地方などで、多くは歴史遺産や萩藩歴史に魅力を感じて来訪。



(1) 「萩のおたから発見スタンプラリー」の紹介

◆ 実施体制など

- ・ 主催: J R西日本、協力:萩市・萩市観光協会、統括・サポート:日本旅行。
- ・ JR西日本は、様々な媒体（駅や車内、アプリ、SNSなど）で告知・宣伝を行い、より広範な客層への認知度向上、参加者増を図った。
- ・ 日本旅行は、参画スポット選定、景品選定、アンケートなどを実施。
- ・ 地域の活性化には、行政だけでなく、観光関係者や地元事業者との連携が必要。今回の企画は、広域からの観光客の呼び込みや地域経済・観光の活性化に寄与したことに加え、萩の魅力を再発見することができた。

◆ 質疑応答

- Q. 萩市民と秋田市民の観光に対する意識の違い、秋田市の印象について
⇒観光は事業者が担うもので、「市民は関係ない」という意識は萩市民にもある。秋田市の土崎に観光で訪れた際に感激した経験からも、外部からの視点で再評価することが観光では重要。
- Q. 本イベントのインバウンド対応について
⇒WESTERアプリは日本語のみの対応のため、ターゲットは日本人であり、今後は多言語化が課題。

(2) デジタルフォトビンゴについて

◆ デジタルフォトビンゴとは

- **ビンゴゲームと写真撮影を組み合わせた周遊促進ツール。**
- スマートフォンで写真を撮影することで、ビンゴカードのマスが開く。ブラウザからプレイ可能（アプリ不要）で参加しやすい仕組み。
- 参加者は専用の申込みサイトからビンゴカードを取得。**GPS機能と連携し、指定エリアでの写真撮影でビンゴが開く。**ビンゴカードは3×3マス（半日程度で周遊）と5×5マス（2～3日）の2種類。
- 参加者へのインセンティブとして、1列ビンゴやフルビンゴでの**景品設定が可能**であるほか、撮影写真はサーバーにも保存され、**フォトコンテストへの活用も可能。**



◆ 期待される効果

- 参加者によるSNSへの写真投稿が増えることで、**Googleのエリア評価向上につながる可能性がある。**
- **GPSデータで顧客の動線や滞在時間などを取得し、今後の企画に活用可能。**
- **滞在時間の延長、教育的要素強化、SNS拡散、再訪促進が期待できる。**

(2) デジタルフォトビンゴについて

◆ イベントでの活用事例

- ・ 姫路城周辺地域

滞在時間延長を目的に導入。カンバuzzi特典付き1,800円のプレミアムビンゴカードを販売し、好評を得ている。グッズ販売との連動で収益化。

- ・ 長野県中野市内

イベントを通じて中野市を訪れるファンを増やし、地域経済を活性化させることを目的に、漫画の聖地を巡るフォトビンゴを実施。参加者の多くは作品のファンで、遠方からの来場者が多かった。



◆ 今後について

- ・ 今年10月に予定されている佐竹史料館のリニューアルに併せて、「デジタルフォトビンゴ」を活用した千秋公園の周遊イベントを実施する予定。

時期：2025年10月～11月

主催：秋田商工会議所 千秋公園歴史観光検討会